

農作物生育・技術情報10号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水 稲

収穫作業も終盤になりました。本年は台風による水の流入、収穫時期の降雨により、ほ場が乾かないままの収穫作業のため、走行軌跡に水がたまっているほ場が見られます。来春に向けて、根雪前のほ場管理をしっかり行い、乾田化をはかりましょう。

○収穫後のほ場管理

(1) 稲わらの処理

稲わらは、ほ場に放置せず速やかに搬出する。

いもち病が発生した水田の稲わらは、ほ場周辺に放置せず搬出してほ場や育苗ハウスから離れた場所に堆積して堆肥化させる。

(2) 透排水性の改善

溝切りで表面排水を促し、水田の乾燥に努める。

必要に応じ、サブソイラーで透水性を促す。

秋起こしは、天候の良い日に水田の乾燥状態を確認してから行う。

(3) 畦などの確認

畦の補修や排水溝の掃除を行い、機能を回復させる。

(4) 土壌診断の実施

低タンパク米生産のためにも、3～4年に1度は土壌診断を行い、収量・地力に合わせた施肥設計を行う。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト 桃太郎 桃太郎8 桃太郎ギガ	<ul style="list-style-type: none"> ・5月定植で8～9段収穫中。 ・6月定植で7段以降収穫中。 ・葉かび病・灰色かび病・ゴーストスポット等の発生が見られる。 ・アブラムシ類、ハダニ類、オンシツコナジラミが一部ほ場で発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病害葉の摘葉等を行う。 ・病害虫の発生に注意し、早期防除を行う。 ・気温が低くなってきたので、夜温13℃を目安に内張りカーテン等の利用で保温する。
ハウス軟白ねぎ 和イトソト 等	<ul style="list-style-type: none"> ・一部でべと病、葉先枯れ、アザミウマ類、タマネギバエの発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉先枯れが発生した時点で農薬散布を行う。
アスパラガス (ハウス立茎) スパークェルカム	<ul style="list-style-type: none"> ・一部で灰色かび病、斑点病が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かん水は11月頃まで行う。 ・茎葉が80%以上黄化し、地際部の茎の中がストロー状になったのを確認してから刈り取る。
きゅうり オーシャン	<ul style="list-style-type: none"> ・生育はほぼ順調で、中段位の子づる・孫づるの収穫が進んでいる。 ・うどんこ病・べと病の発生が一部のほ場で見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病、べと病の防除には、予防効果の高い薬剤と、治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。 ・気温が低くなってきたので、夜温13℃を目安に内張りカーテン等の利用で保温する。

9～10月は秋の農作業安全運動期間です ゆとりを持った作業を計画しましょう!